

はじめての新聞

指定年月日：2012年（町指定文化財 小林家文書）

時代：明治5～6年

インターネットのニュースサイトやアプリが広まり、最近では新聞を広げてニュースを読む、といった光景も少なくなってきたそうです。今回はそんな新聞について紹介します。

各地のニュースや政府のお知らせが載った近代的な新聞が奈良県で発行されたのは明治時代のことです。「日新記聞^{にっしんきぶん}」と題され、全36号と追録、別冊附録が発行されました。町指定文化財「小林家文書^{こばやしけもんじょ}」にはほぼ全号が揃っており、当時の情勢がつぶさに読み取れます。

その内容は、政府の官報としての記事や、奈良県下を中心に起こったさまざまな事件、投書の掲載などですが、現在の新聞とは少し様子が違います。

例えば、勉学に励むことを推奨したり、勤勉に働く人を紹介したり、古い風習の廃止を訴えたりと、まるで啓発本のような記事がよく見られます。よく学び、よく働き、新しい時代を受け入れる、そういった人材を育成していこうと考えたのでしょうか。

文明開化の波にさらされ、諸外国のような強い国づくりを目指して国や人を大改革していった時代。その中であって、「日新記聞」は諸々のニュースとともに、当時の日本が目指していた国民像を現代にも届けてくれています。

